

1980年代『縮み志向の日本人』で独創的な日本論を展開し、現在も東アジアの未来を展望する構想を発表し続けている、李御寧^{イ オリヨン}・韓中日比較文化研究所理事長と川勝平太^{かわかつ へいた}・静岡県知事が、近年李氏が提唱する「生命資本主義」、「生命化時代」について語り合った。
[コーディネーター：上垣外憲一・大妻女子大学教授(対談当時)] ※2018年9月韓国にて対談

生命化時代を作る

～文化力、生命力を高め、オンリーワンのふじのくにへ～

知事 御無沙汰しています。このたびは静岡県知事として参りました。韓国を代表する碩学にこうしてお目にかかることができ、心よりお祝い申し上げます。
李氏 こちらこそ歓迎いたします。

知事 私は、知事をなさる前にお会いして、いろいろな所で何度か対談していますが、学者としてではなく、知事として私を訪れていただくのは初めてですね。
知事 先生は一貫して文化の大切さを説かれてきました。私は静岡県を「ふじのくに」と名付け

て、文化力の向上を政策の柱にしています。いわば先生の文化哲学の実践です。
李氏 文化力というものは、元々は他の国でもジョセフ・ナイ^{※1}がソフトパワーという言葉で提唱したことがありましたが、国を挙げての1つのキーワードとしたのは、(知事を指して)「文化力」という本を書いていらつしやる知事さんがオリジナルだと思えます。私も、韓国で文化大臣を務めていた時に文化主義をスローガンにした事があります。その時はちょうど1990年、ソウルオリンピック

クが終わった時で、経済第一主義から文化の方に目を向けようと呼びかけたのです。規制から離れた芸術総合学校を創設し、また世界一早いブロードバンドのITと文化環境をつないで、今日の韓流ドラマの源流となった「冬のソナタ」とか、BTS(防弾少年団)のK-POPなどを世界に発信する基盤を築きました。日本では、富国強兵で川勝教授が活躍していたので、励まされてきました。
知事 「富国強兵」の強兵の軍力から有徳の文化力へのパラダイムシフトです。



韓中日比較文化研究所理事長 李御寧氏^{イ オリヨン}

静岡県知事 川勝平太^{かわかつ へいた}

た円卓会議(一九九二年)で、今回の対談をアレンジしてください。上垣外憲一教授も参加されていました。三日間にわたり碩学が応酬した貴重な記録は『新しいアジアのドラマ』(筑摩書房)に結実しました。その後、先生の警咳に接する機会は、私の『文明の海洋史観』(中公文庫)をめぐる論評もふくめ、京都の国際日本文化研究センターや韓国で何度もありました。

李氏 シーパワーとランドパワーの話です。私は半島です。東アジア論です。
知事 しかしそれが逆に回ると

あります。今までの中国の中華主義と日本の大東亜の二項対立を三項循環に変えていくジャンケン文明論の発想が生まれたわけですね。
知事 ハッと驚きました。グー・チョキ・パーで中国・日本・韓国の三者関係を論じられました。グーとチョキ、グーとパーだと対立しますが、グー・チョキ・パーを同時にさせば対立しません。海洋日本と大陸中国に、両方に接する半島韓国を加えたジャンケン文明論はダイナミックで独創的な東アジア論です。

三棘みになって動けないんです。グー・チョキ・パーの関係は負ける順です。チョキはグーに負け、パーはチョキに負け。しかし韓国ではその順が違っていて、鉄のカイ(チョキ)、岩のバイ(グー)、風呂敷(紙)のポー(パー)になって皆が勝つ関係になっています。同じジャンケン構造でも回る方向によって、皆が勝つサンセン(相生)と、皆が負けるサンクック(相克)になります。
例えば韓国は、中国との貿易で黒字を出していますが、日本は韓国で黒字を出す。そして次に中国は日本との貿易で黒字を出して、韓国に回るとみんな黒字になるけど、逆回りにするとみんな赤字になる。グー・チョキ・パーをチョキ・グー・パーに転回すると、同じジャンケンの話でもその状況と結果が変わります。それがまさに文化の力ですね。海洋と大陸の二項対立の覇権の争いから三項循環のサンセン、相生きる生命に向かっています。どのような方向に行くかで未来が決まるんですが、韓国のすぐ近くには川勝知事の「勝」と静岡の「静」、平和の岡が勝つ。(笑)



静岡県知事 川勝 平太

1948年生まれ。京都市出身。早稲田大学、同大学院を経て英オックスフォード大学で博士号取得。早大教授、国際日本文化研究センター教授、静岡文化芸術大学学長などを経て2009年より現職。現在3期目。



韓中日比較文化研究所理事長 李 御寧氏

1934年生まれ。韓国忠清南道出身。ソウル大学、同大学院を修了し、大学院碩士。文学博士。朝鮮日報などの論説委員、梨花女子大学教授、記号学研究所所長などを経て、現職。1988年のソウルオリンピックの開閉会式など文化企画を主導。その後、韓国の初代文化相を務めた。韓国はもちろん、日本でも多数の著書があり、1982年に日本語で書かれ出版された「縮み」志向の日本人」はベストセラーとなった。

東京大学 学術博士 上垣外 憲一氏

1948年生まれ。長野県松本市出身。東京大学、同大学院を経て博士号取得。国際日本文化研究センター教授、帝塚山学院大学副学長、大手前大学教授、大妻女子大学教授などを務めた。

知事 ジャンケン文明論の日・中・韓の位置づけは見事です。韓半島を媒介しなければ日中の平和も東アジアの平和もありません。

経済力や軍事力は外に向かう力ですが、文化力は内に向かわせる力です。先生は文化大臣になられて文化主義政策で韓流文化を創造されました。創造拠点に人が集まり、俳優になり、ドラマを作り、発信する。それが魅力となつて大勢の日本人が韓国を訪れるようになりました。文化力は惹きつける力です。

李氏 他者を惹き寄せる共感の力ですね。
知事 外に向かう攻撃力ではな

くて、惹きつけるアトラクティブパワー(魅力)です。それは国境を超えて共感を生みだし、人を幸せにし、社会を平和にします。人を幸せにし、社会を平和にするのが政治の使命です。先生は文化大臣として文化政策で国づくりをされ、私は県知事として文化力をベースに地域づくりをしています。

李氏 中庸でしたか。人は学んで、問うて、考えて、話して、行う。前の四つまでは窮理といまして学者、知識人が得意としているものですが、最後の「行」は石田梅岩が文字芸者と批判したように否定的でした。学者出身の川勝知事がその偏見を一掃

して、見事に3選に成功したインパクトは想像以上に強い意味をもっているのです。

長い説明が必要ですが荒っぽく言いますと、今からの文明はデジタルのサイバー空間とアナログのリアル空間が接合するデジログ(※2)の地点。すなわちグーとパーの間にあるチョキのようなインタフェースから展開されてきました。なぜかと言いますと世界はリーマンショック以後、産業資本や金融資本の賞味期間の限界が見えてきた、ちょうど2016年、ソウルで人工知能のアルパゴ(AlphaGo)アルファ碁が、人類側を代表する李世ドル(※3)を破

り、ホモサピエンスの新しいストーリーが始まったからです。当然、従来の資本の概念も根本から変わり、人間資本(※4)から、社会資本から、文化資本から、自然資本から、その先に、生命資本が出現する。すなわち情報文明からデータ資本が産まれ、ついには生命資本が創発する、生命化時代に入るといふこととです。これが大雑把な、私の未来文明の予測です。お世辞じゃないけれど、その文明の物語として日本で一番モデルになるところがふじのくに、静岡ではないかと思えます。何よりもそのプレイヤーとして川勝知事がいて、その基盤に文化力と生命資

源がある、地理的にも東日本と西日本のちょうど真ん中であり、東西の接点に位置しています。チョコキのようなインタフェースの役割をする。その上一番高い富士山と一番深い駿河湾を持っている自然資本、他にもお米とお茶の日本第一の食文化を抱えています。

知事 食材の数が日本一、439ある「食材の王国」です。ただ、日本一ではなく、世界クラスの…

李氏 世界第1位?
知事 静岡中心主義も日本中心主義も、自己中心主義ですから、よくありません。静岡は世界の一部です。窓を大きく開き、世界から認められるものを列挙しよ

うと提案しました。ここに「ふじのくに静岡県の世界クラスの資源・人材群」の資料があります。2013年に富士山が世界文化遺産、茶畑(茶草場農法)が世界農業遺産になり、その年の世界クラスは3件、翌年に9件、2015年に11件、2016年に20件、2017年に20件と加わり、今年(2018年)も続々と認定され、1カ月1件以上のペースで近いうちに静岡県の世界クラスは100件になる見込みです。

先生の生命資本・生命化時代の未来予測は重要なメッセージです。生命を論じるとき、日本では「共生」と言いますが、韓国では

「相生」ですね。生命力が最も発揮されるのは、自己中心ではなく、何かを生かし何かに生かされるときです。相手を生かすことで本当に良く生きられる。世話をして美しい花を咲かせる、そのことによつてかえつて自分も幸せになる。真に立派に生きるというのは相手を生かすことです。我々は富士山に励まされています。駿河湾の海によつて深い想いを涵養されます。自然によつて生かされています。「生かし生かされる」というのが生命の実相ですから、「相生」という概念は適切です。親が子を育てる、子が親孝行するように、相手を生かす時、両方が幸せになる。生命は、互いに生かし生

かされている循環の中にあります。生きとし生けるものを論じるのに日本の「共生」は並列的で、韓国の「相生」は動態的で、生命論としては適切な概念だとかねてよ

り思っていました。
李氏 ウェブサイトからちらつと見たんですが、静岡県では世界一を募集しているようでしたね。朝鮮通信使が残した扁額の文字が一番多く保存されているのも静岡だと思えますが。
知事 朝鮮通信使は「世界の記憶」に認定されましたが、全部で300件ばかりの構成資産があり、その200件近くが日本にあり、その内48件が静岡県の清見寺にあります。最大の件数です。世界の中のふじのくにを考えながら県政を進めています。

李氏 そうですよ。大変ですね。静岡は世界一を目指して発展している。今までは日本第1位、これではガラパゴスだから、世界第1位にしようという。その「第1位」というのは、日本第1位と同じく数字のランキングです。第1位には必ず第2位、第3位

※4 ピエール・ブルデュー (Pierre Bourdieu フランスの社会学者)が、人間の持つ資本を文化資本、経済資本、社会関係資本の3つに分類し説明した。

※2 デジログ (DEGILOG) : デジタルとアナログが一つに融合する。李氏が命名

※3 李世ドル (イ・セドル) : 韓国の囲碁棋士。世界タイトルを18回獲得している。2000年代半ばから2010年代前半における世界最強の棋士と目されている